

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2019年 第I・四半期(1～3月) VOL. 92

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 経営上の関心事・課題などについて	12
4. 経営上の問題点・業界の動向など	15

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2019年6月実施）の調査で92回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業660社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）340社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が26.7%、非製造業が20.0%、全体では24.4%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回答率
金属製品	170	52	30.6%
機械器具	190	50	26.3%
その他製造業	300	74	24.7%
製造業計	660	176	26.7%
建設業	120	32	26.7%
卸売業	53	16	30.2%
小売業	47	5	10.6%
サービス業	120	15	12.5%
非製造業計	340	68	20.0%
合計	1,000	244	24.4%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	388	86	22.2%	242	43	17.8%	630	129	20.5%
20～49人	188	65	34.6%	75	21	28.0%	263	86	32.7%
50～99人	54	18	33.3%	12	2	16.7%	66	20	30.3%
100～299人	25	6	24.0%	7	1	14.3%	32	7	21.9%
300人以上	5	1	20.0%	4	1	25.0%	9	2	22.2%
合計	660	176	26.7%	340	68	20.0%	1,000	244	24.4%

【調査結果の総括】

～足踏み感のみられる八尾の景気～

1～3月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で15と、前回調査から11ポイント悪化した(2018年12月=26→2019年3月=15)。D I水準は高めを維持しているものの景気回復ペースは鈍化した。業種別にみると、製造業は前回調査から13ポイント悪化し(12月=22→3月=9)、非製造業も6ポイントの悪化(12月=35→3月=29)となった。昨年末以降の米中貿易摩擦やEU離脱問題の混迷などを背景とした海外経済の先行き懸念の強まりが、製造業を中心に企業マインドを下押ししているとみられる。一方、非製造業では、昨年の自然災害に関連した物流混乱の収束や災害復旧工事需要などから、卸売業の回復、建設業の好調がみられ、製造業の落ち込みを補う形となった。

D Iの推移からここ1年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、2018年は海外経済の先行き不透明感が燦り続けるなか、夏には大阪府北部地震や豪雨などの自然災害の影響を受けて国内の企業活動が停滞し、八尾の景況感の改善の動きに一服感がみられる状況となった。秋以降は、自然災害等の影響による景気下押しは一時的にとどまり、一旦は改善したものの、2018年末ごろより、米中貿易摩擦の激化などから海外経済の減速感が急速に強まるなか、製造業の景況感は頭打ちとなった。年間を通してみれば、D Iの水準は高めを維持したものの、一進一退の状況であった。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2018年4～6月期		2018年7～9月期		2018年10～12月期		2019年1月～3月期		天気図 前回比較
全産業		24		30		26		15	
製造業		18		28		22		9	
金属製品		21		11		26		10	
機械器具		19		39		20		4	
その他の製造業		14		33		23		12	
非製造業		41		34		35		29	
建設業		59		37		53		28	
卸売業		37		▲16		22		31	
小売業		60		60		50		20	
サービス業		18		45		22		33	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況D I値によって判定。本設問は

2012年4～6月調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ、0～9は薄日、▲10～▲11は曇り、▲12～▲11は小雨、▲21以下は雨とした。

図表における前回調査との比較の矢印マークは、天気図に基づくものであり、が好転、が横ばい、が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目(「生産額」、「出荷額」など)は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²(2019年3月調査)における全国および近畿の業況判断DI(全産業・全規模)と比較すると前回調査より悪化し、全国、近畿がそれぞれ4ポイント、5ポイントであった。八尾においても11ポイントの悪化で、全国・近畿と比べて悪化の度合いが大きい。なかでも製造業の悪化幅が全国(9ポイントの悪化)、近畿(11ポイントの悪化)、八尾(13ポイントの悪化)と大きく悪化した(図2～4)。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

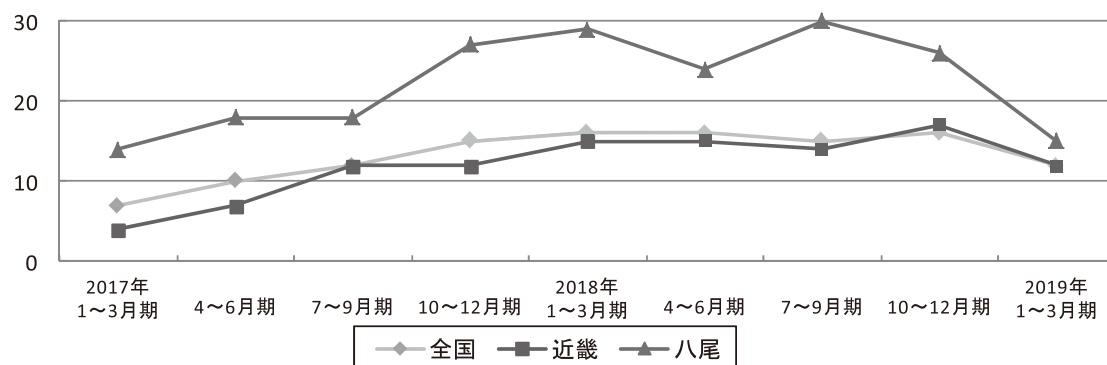


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

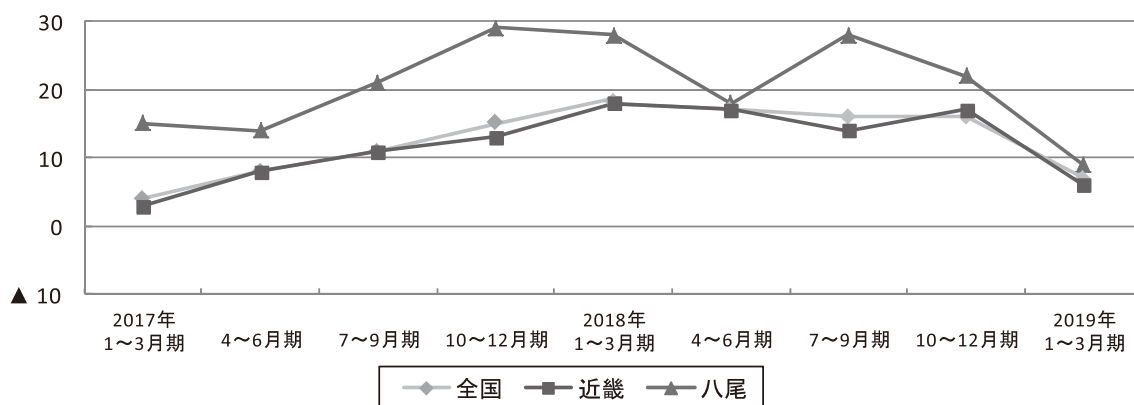
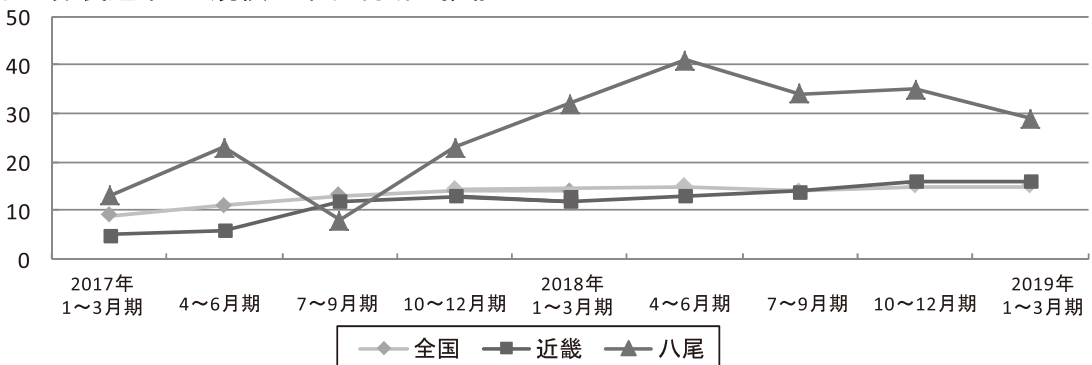


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



(資料) 日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると（図5～6）、業況の悪化を背景に製造業の「生産額」についてはマイナスに転じ、「製品販売価格」「設備投資額」についても前回調査に比べマイナス幅が拡大した。一方、非製造業は、「売上額」や「販売先数・客数」のマイナス幅が拡大したものの、D Iの水準は高めを維持して推移している。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

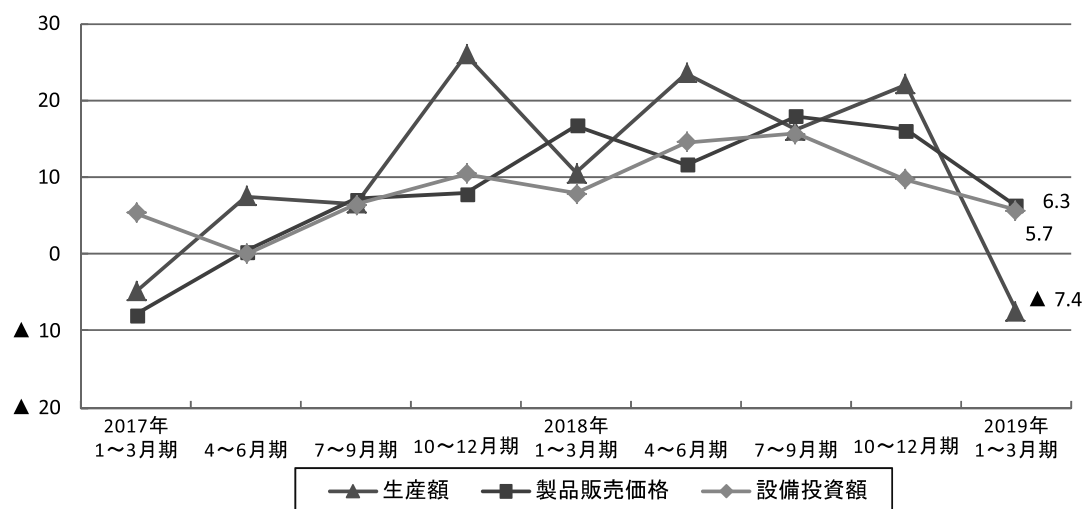
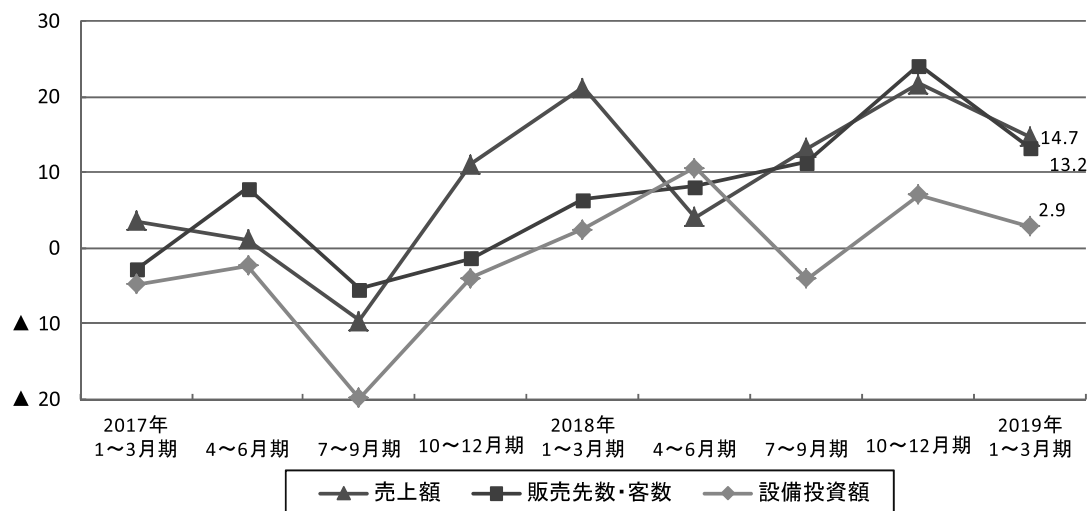


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

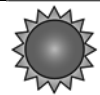
1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ
(今回)



【生産額】

製造業の2019年1～3月期における生産額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲14.8とマイナス（減少超）で推移した（前々回11.7→前回12.6→今回▲14.8）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表3. 生産額(前期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	52	26.9	32.7	40.4	▲ 13.5	25.0
	機械器具	50	16.0	50.0	34.0	▲ 18.0	10.2
	その他製造業	74	20.3	45.9	33.8	▲ 13.5	6.7
	製造業計	176	21.0	43.2	35.8	▲ 14.8	12.6

前年同期と比べた生産額DIでも、▲7.4と（減少超）が続いた（前々回16.2→前回22.1→今回22.1）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	52	30.8	34.6	34.6	▲ 3.8	41.7
	機械器具	50	18.0	42.0	40.0	▲ 22.0	15.0
	その他製造業	74	28.4	43.2	28.4	0.0	15.0
	製造業計	176	26.1	40.3	33.5	▲ 7.4	22.1

【出荷額】

1～3月期の出荷額DI（前期比、「増加」－「減少」）は▲17.0と、マイナス（減少超）が続いた（前々回9.9→前回10.4→今回▲17.0）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表5. 出荷額

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加	横這	減少		
	金属製品	52	28.8	32.7	38.5	▲ 9.7	30.6
	機械器具	50	12.0	50.0	38.0	▲ 26.0	2.5
	その他製造業	74	20.3	43.2	36.5	▲ 16.2	3.4
	製造業計	176	20.5	42.0	37.5	▲ 17.0	10.4

【製品在庫】

1～3 月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲3.4 とマイナス（過剰超）幅が縮小した（前々回▲6.6→前回▲0.8→今回▲3.4）。業種別の内訳をみると、金属製品とその他の製造業でマイナス幅が拡大し、機械器具はプラス（不足超）が続いた。

表6. 製品在庫

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			不足	適正	過剰		
	金属製品	52	3.8	84.6	11.5	▲ 7.7	3.0
	機械器具	50	12.0	80.0	8.0	4.0	▲ 2.6
	その他製造業	74	6.8	81.1	12.2	▲ 5.4	▲ 1.8
	製造業計	176	7.4	81.8	10.8	▲ 3.4	▲ 0.8

【原材料仕入価格】

1～3 月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 36.9 と、プラス（値上超）が続き、価格上昇傾向である（前々回 56.4→前回 46.7→今回 36.9）。業種別では、すべての業種がプラスで推移した。

表7. 原材料仕入価格

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			値上	横這	値下		
	金属製品	52	38.5	55.8	5.8	32.7	38.8
	機械器具	50	40.0	56.0	4.0	36.0	45.0
	その他製造業	74	41.9	56.8	1.4	40.5	52.5
	製造業計	176	40.3	56.3	3.4	36.9	46.7

【製品販売価格】

1～3 月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は 2.3 と、プラス（値上超）が続き値上げ傾向は持続している（前々回 16.4→前回 5.2→今回 2.3）。業種別内訳をみると、金属製品が±0 と横ばいとなったものの、機械器具はマイナスで推移し、その他の製造業はプラスで推移している。

表8. 製品販売価格(前期比)

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			値上	横這	値下		
	金属製品	52	7.7	84.6	7.7	0.0	2.7
	機械器具	50	4.0	84.0	12.0	▲ 8.0	0.0
	その他製造業	74	14.9	81.1	4.1	10.8	10.0
	製造業計	176	9.7	83.0	7.4	2.3	5.2

前年同期と比べた製品販売価格D I も 6.2 とプラスであった（前々回 18.0→前回 16.2→今回 6.2）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	52	17.3	76.9	5.8	11.5	22.3
機械器具	50	6.0	90.0	4.0	2.0	7.5
その他製造業	74	16.2	73.0	10.8	5.4	18.4
製造業計	176	13.6	79.0	7.4	6.2	16.2

【 採算状況 】

1～3 月期の採算状況D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲14.7 とマイナス（悪化超）が続
き、採算面は厳しい状況が続いている（前々回▲7.2→前回▲11.1→今回▲14.7）。業種別では、
すべての業種がマイナスで推移した。

表10. 採算状況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	52	5.8	73.1	21.2	▲ 15.4	2.8
機械器具	50	4.0	68.0	28.0	▲ 24.0	▲ 15.0
その他製造業	74	16.2	59.5	24.3	▲ 8.1	▲ 16.9
製造業計	176	9.7	65.9	24.4	▲ 14.7	▲ 11.1

【 資金繰り 】

1～3 月期の資金繰りD I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲6.2 と、マイナス（悪化超）と
なった（前々回±0→前回▲2.9→今回▲6.2）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移し
た。

表11. 資金繰り

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	52	5.8	75.0	19.2	▲ 13.4	5.5
機械器具	50	6.0	82.0	12.0	▲ 6.0	▲ 2.5
その他製造業	74	13.5	71.6	14.9	▲ 1.4	▲ 8.5
製造業計	176	9.1	75.6	15.3	▲ 6.2	▲ 2.9

【 受注状況 】

1～3 月期の受注状況 D I（前期比、「好転」－「悪化」）は▲18.7 とマイナス（悪化超）となった（前々回 8.1→前回▲3.7→今回▲18.7）。業種別では、すべての業種がマイナスで推移した。

表12. 受注状況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	52	7.7	57.7	34.6	▲ 26.9	8.3
機械器具	50	14.0	56.0	30.0	▲ 16.0	▲ 12.5
その他製造業	74	16.2	52.7	31.1	▲ 14.9	▲ 5.0
製造業計	176	13.1	55.1	31.8	▲ 18.7	▲ 3.7

【 設備投資額 】

1～3 月期の設備投資額 D I（前年同期比、「増加」－「減少」）は 5.7 と、プラス（増加超）で推移しており、設備投資は拡大傾向が持続している（前々回 15.6→前回 9.7→今回 5.7）。業種別では、金属製品と機械器具がプラス（増加超）となったが、その他の製造業はマイナスに転じた。

表13.設備投資額

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	52	19.2	69.2	11.5	7.7	13.9
機械器具	50	22.0	72.0	6.0	16.0	10.2
その他製造業	74	17.6	62.2	20.3	▲ 2.7	6.7
製造業計	176	19.3	67.0	13.6	5.7	9.7

【 向こう3カ月の景況 】

1～3 月期における向こう 3 カ月の景況判断 D I（「好転」－「悪化」）は▲33.6 と、マイナス（悪化超）に転じた（前々回 6.3→前回▲18.4→今回▲33.6）。業種別の内訳をみると、全ての業種でマイナスとなった。

表14.向こう3カ月の景況

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	52	7.7	44.2	48.1	▲ 40.4	▲ 11.1
機械器具	50	8.0	32.0	60.0	▲ 52.0	▲ 17.5
その他製造業	74	13.5	56.8	29.7	▲ 16.2	▲ 23.3
製造業計	176	10.2	46.0	43.8	▲ 33.6	▲ 18.4

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



建設業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



1～3月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額、工事引合件数や受注状況はプラス（増加超、好転超）が続き、事業環境は良好である。資材仕入価格や労務費はプラス（値上超）であるが、採算状況が±0、受注単価がマイナス（値下超）に転じた。向こう3カ月の景況はプラス（好転超）となっており、総じてみれば景況感は良好である。

前年同期比D I でみても、売上額、受注状況、設備投資額もプラス（増加超）が続き、投資には前向きな姿勢がみられている。

表15.建設業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	32	40.6	37.5	21.9	18.7	23.1
	資材仕入価格	32	62.5	37.5	0.0	62.5	48.0
	労務費	32	40.6	59.4	0.0	40.6	53.8
	工事引合件数	32	31.3	56.3	12.4	18.9	38.5
	受注単価	32	6.4	81.2	12.4	▲ 6.0	3.8
	採算状況	32	9.4	81.2	9.4	0.0	7.7
	資金繰り	32	12.5	78.1	9.4	3.1	23.1
	受注状況	32	28.1	56.3	15.6	12.5	20.0
	向こう3ヵ月の景況	32	28.1	53.1	18.8	9.3	15.4
前年同期比	売上額	32	40.6	34.4	25	15.6	32.0
	受注状況	32	28.1	56.3	15.6	12.5	28.0
	設備投資額	32	15.6	75.0	9.4	6.2	0.0

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

晴れ



1～3 月期を前期と比べると、売上額が± 0 と増勢の弱まりがみられ、事業環境は良好ではあるが、全体的にマイナス幅が拡大した。販売先数・客数や客単価がプラス（値上超）であった。もっとも、商品在庫が± 0 に転じたものの、向こう 3 カ月の景況がマイナス（悪化超）と、先行きに対する懸念が依然として強まっている状況である。

前年同期との D I の比較でみると売上額、販売先数・客数ともにプラス（増加超）となり、設備投資額もプラスに転じた。

表16.卸売業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	16	18.8	62.5	18.8	0.0	35.7
	販売先数・客数	16	18.8	81.2	0.0	18.8	21.4
	客単価	16	12.5	81.2	6.3	6.2	21.5
	商品仕入価格	16	18.8	74.9	6.3	12.5	21.5
	商品在庫	16	6.3	87.5	6.3	0.0	▲ 21.4
	商品販売価格	16	18.8	74.9	6.3	12.5	28.6
	採算状況	16	12.5	75.0	12.5	0.0	21.5
	資金繰り	16	12.5	81.2	6.3	6.2	21.4
	粗利益率	16	6.3	81.2	12.5	▲ 6.2	0.0
	向こう3カ月の景況	16	12.5	56.2	31.3	▲ 18.8	▲ 14.3
前年同期比	売上額	16	37.5	43.7	18.8	18.7	14.3
	販売先数・客数	16	25.0	62.5	12.5	12.5	16.7
	設備投資額	16	18.8	81.2	0.0	18.8	18.2

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

晴れ



1～3 月期の各種 D I（前期比）は、客単価はマイナス（減少超）、商品在庫もマイナス（減少超）と伸び悩む状況ながら、販売先数・客数がプラス（増加超）となり、売上額もプラス（増加超）となった。向こう 3 カ月の景況はマイナス（減少超）となり、先行きの見通しが懸念される。

前年同期との比較では、販売先数・客数、設備投資額ともにプラス（増加超）となり、改善している。売上額は± 0 と横ばいにとどまった。

表17.小売業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	5	60.0	20.0	20.0	40.0	20.0
	販売先数・客数	5	80.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	客単価	5	0.0	40.0	60.0	▲ 60.0	▲ 20.0
	商品仕入価格	5	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0
	商品在庫	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	20.0
	商品販売価格	5	20.0	60.0	20.0	0.0	20.0
	採算状況	5	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	0.0
	資金繰り	5	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
	粗利益率	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0
	向こう3ヵ月の景況	5	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	40.0
同 前 年 比	売上額	5	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0
	販売先数・客数	5	80.0	0.0	20.0	60.0	20.0
	設備投資額	5	40.0	60.0	0.0	40.0	0.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



晴れ

(今回)



1～3 月期を前期と比べると、客数、客単価ともプラス（増加超）であったが、売上額が±0にとどまり、売上回復の勢いが乏しい。採算状況も±0となり、向こう3ヵ月の景況はマイナス（悪化超）と、景況感改善の動きは弱い。

前年同期との比較では、売上額がプラス（増加超）であったが、設備投資額が再びマイナス（減少超）に転じた。

表18.サービス業の景気動向

業種		当期生産額は前年同期に比べて					
		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	15	40.0	20.0	40.0	0.0	37.5
	客数	15	26.7	53.3	20.0	6.7	43.7
	客単価	15	20.0	66.7	13.3	6.7	12.5
	採算状況	15	26.7	46.6	26.7	0.0	18.8
	資金繰り	15	20.0	60.0	20.0	0.0	6.3
	粗利益率	15	20.0	60.0	20.0	0.0	31.2
	向こう3ヵ月の景況	15	6.7	73.3	20.0	▲ 13.3	0.0
同 前 年 比	売上額	15	40.0	33.3	26.7	13.3	12.5
	客数	15	20.0	60.0	20.0	0.0	25.0
	設備投資額	15	6.7	53.3	40.0	▲ 33.3	12.5

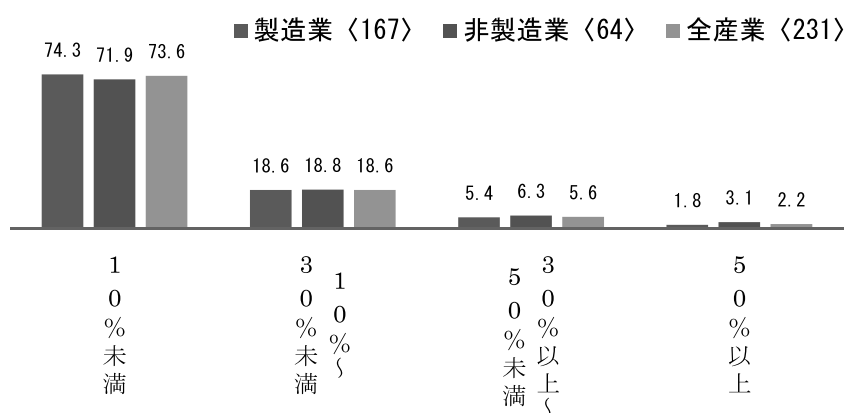
3. 経営上の関心事・課題などについて

今回の調査では、人材の定着と、経営上の関心事・課題について調査した。

（１）従業員の離職の状況について

従業員の離職の状況（採用後、３年以内に離職した割合はどれぐらいか）を尋ねたところ、全体（回答事業所数は 231）では、「10%未満」全産業の事業所は 73.6%を占め、製造業・非製造業ともに多数を占めた。

図 7. 離職の状況（業種別）（単位：％）

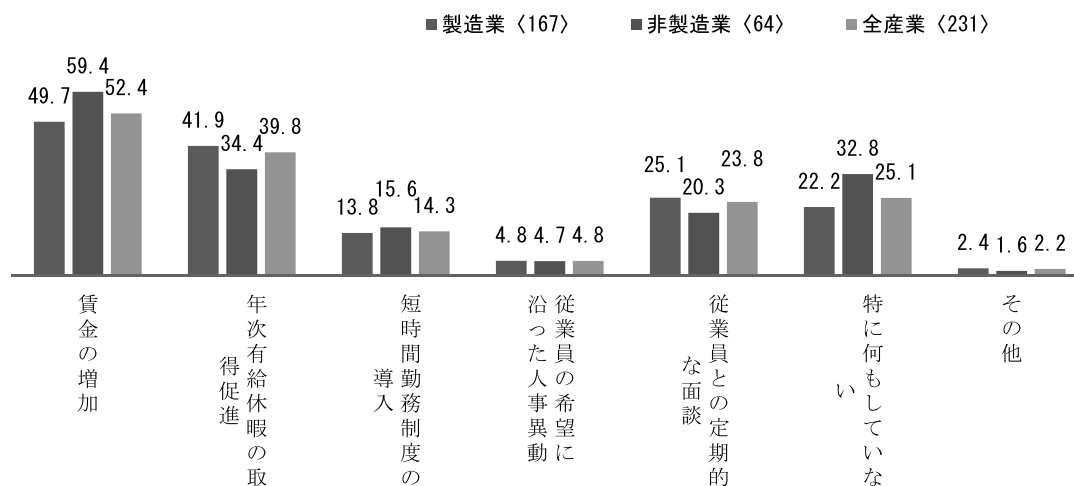


（２）離職防止のための取組みについて

離職防止の取組みについて尋ねたところ、全体（回答事業所数は 231）では、「賃金の増加」（52.4%）、「年次有給休暇の取得促進」が 39.8%となった。

また、「従業員との定期的な面談」（23.8%）、が上位に続いたが、「特に何もしていない」（25.1%）と、取り組んでいない事業所についての割合も多数を占めている。

図 8. 離職防止のための取組みについて（業種別）（単位：％）



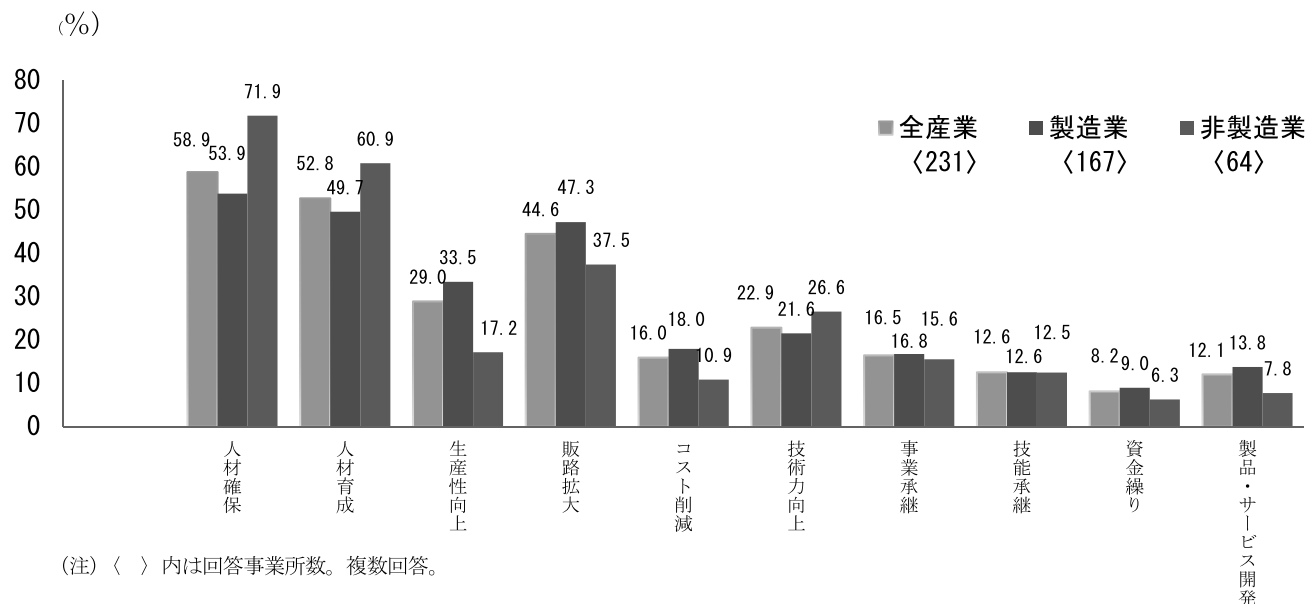
企業経営における関心事や課題について尋ねたところ、全体（回答事業所数は231）では、「人材確保」（58.9%）が最も多く、次いで「人材育成」（52.8%）が挙げられている（表 19、図 9）。業種別でも、製造業、非製造業ともに、これらが上位2項目となっており、業種に関らず人手不足への対応が企業経営の最大の課題となっている。また、人手不足への対応として「生産性向上」を挙げる事業所も多く、全体では「人材確保」、「人材育成」「販路拡大」の次に挙げられている。

表 19. 企業経営における関心事や課題（業種別）

	(%)		
業種	全産業 〈231〉	製造業 〈167〉	非製造業 〈64〉
人材確保	58.9	53.9	71.9
人材育成	52.8	49.7	60.9
生産性向上	29.0	33.5	17.2
販路拡大	44.6	47.3	37.5
コスト削減	16.0	18.0	10.9
技術力向上	22.9	21.6	26.6
事業承継	16.5	16.8	15.6
技能承継	12.6	12.6	12.5
資金繰り	8.2	9.0	6.3
製品・サービス開発	12.1	13.8	7.8
仕入・外注先確保	8.7	9.0	7.8
業界動向	5.2	4.8	6.3
IT活用	4.3	4.8	3.1
環境対策	2.2	1.8	3.1
海外展開	3.9	4.2	3.1
知的財産権対応	0.9	1.2	0.0
その他	0.4	0.0	0.0

（注）〈 〉内は回答事業所数

図 7. 企業経営における関心事や課題（業種別、上位項目）



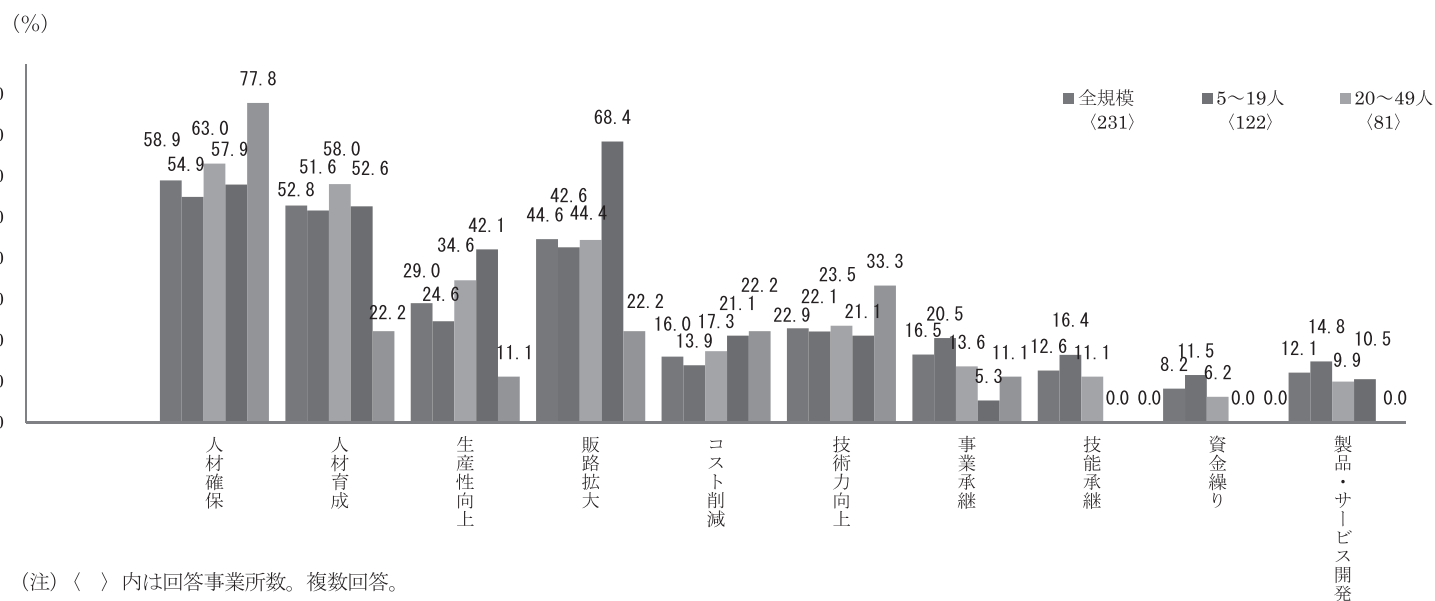
事業所規模別においても、50～99 人規模を除いて、どの規模でも「人材確保」が最も多く、「人材育成」も、「人材確保」の次に挙げられた（表 20、図 10）。50～99 人規模では「販路拡大」が最も多く、次いで挙げられたのは「人材確保」であった。総じて、事業所規模に関わらず人手不足への対応が重要課題となっている。また、「技能承継」「製品・サービス開発」については、100 人以上の相対的に規模の大きい事業所では関心事・課題としては挙げられておらず、規模の小さい事業所での課題であることが見て取れる。

表 20. 企業経営における関心事や課題（事業所規模別）

	(%)				
	全規模 〈231〉	5～19人 〈122〉	20～49人 〈81〉	50～99人 〈19〉	100人以上 〈9〉
人材確保	58.9	54.9	63.0	57.9	77.8
人材育成	52.8	51.6	58.0	52.6	22.2
生産性向上	29.0	24.6	34.6	42.1	11.1
販路拡大	44.6	42.6	44.4	68.4	22.2
コスト削減	16.0	13.9	17.3	21.1	22.2
技術力向上	22.9	22.1	23.5	21.1	33.3
事業承継	16.5	20.5	13.6	5.3	11.1
技能承継	12.6	16.4	11.1	0.0	0.0
資金繰り	8.2	11.5	6.2	0.0	0.0
製品・サービス開発	12.1	14.8	9.9	10.5	0.0
仕入・外注先確保	8.7	8.2	8.6	10.5	11.1
業界動向	5.2	5.7	4.9	5.3	0.0
IT活用	4.3	5.7	2.5	5.3	0.0
環境対策	2.2	2.5	2.5	0.0	0.0
海外展開	3.9	3.3	6.2	0.0	0.0
知的財産権対応	0.9	0.8	1.2	0.0	0.0
その他	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0

（注）〈 〉内は回答事業所数

図 10. 企業経営における関心事や課題（事業所規模別、上位項目）



4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	働き方改革を気にしながらの生産調整と資金繰りバランスは難しい。
製造業	B	米中貿易摩擦の影響、懸念。
製造業	A	残業の削減（＝生産性の向上）に取りかかったところですが、成果を出せるかまだ分からないし、時間もかかると思います。
製造業	A	運送や原材料のコストは上がっているが価格に転嫁できていない。
製造業	A	2017年の冬頃から感じていたものが現在です。国と町工場のギャップが酷い。
製造業	B	全体的に受注が増加している。
製造業	A	製造面でも地産地消できる体制になればと願います。現状は海外に流れる仕事が多いので。国内生産が増えればと思います。
建設業	B	受注が増えるため、買掛に対応する資金繰りが必要。
建設業	A	民間受注単価交渉（値上対応）。
建設業	B	不景気の波が押し寄せて来る気がします。
建設業	B	なにせ引き合いの多さにはびっくりしている。大手ゼネコンが断っているのか。
卸・小売業	B	人材の確保に悩みます。景気も想像以上に下降気味です。新規拡販に知恵を出すことに心がけています。
卸・小売業	A	量販店の売上が悪くなったと思います。
サービス業	A	平均年齢が高いため若返りを図りたい。

（注1）規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

（注2）コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2019年6月時点での表現である。



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>



〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>